

# Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン



2021年10月号 No.375

# Network9

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

2021年10月号 No.375

表紙 仏花

石川 真樹 [茨城 1組 福法寺]



花材 南天、ウメモドキ、菊、小菊、  
スカシユリ、ルスカス



Shinran  
S50<sup>th</sup>  
S500<sup>th</sup>

—(2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 慶讃テーマ)—  
 南無阿弥陀仏  
人と生まれたことの意味をたずねていこう

東京教区教化委員会報 ネットワークナイン

発行日 2021年10月1日

編集 教化委員会広報・出版部門

『ネットワークナイン』班 編集員

総編集長：本田 彰一（東京1）

チーフ：中村 晃（茨城1）

佐々木誠信（東京4）朝倉 俊隆（東京5）五島 大地（東京8）大山 信敬（茨城2）

チーフ：田上 翼（茨城1）

坂東 性悦（東京2）平松 正宣（東京3）櫻田 純（東京6）秦 顕生（湘南）

チーフ：田宮 真人（東京8）

内藤 友樹（東京1）渡邊 尚康（東京3）相馬 法道（茨城1）鞠川 卓史（湘南）

発行 真宗大谷派東京教区教化委員会

〒177-0032 練馬区谷原1-3-7東本願寺真宗会館

TEL. 03-5393-0810 FAX. 03-5393-0814 Email. nw9@ji-n.net

ご意見、ご感想は上記連絡先までお願いします。

# もくじ

宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃事業

- |                       |                       |        |
|-----------------------|-----------------------|--------|
| ●03                   | ご縁を慶び讃える法要            | 柴崎 光   |
| 特集 「寺報」作り             |                       |        |
| ●05                   | 文字と紙で思いを届ける           | 新井 義雄  |
| <br>                  |                       |        |
| ●13                   | 法語ポスター                |        |
| 教区教化通信 総合調整総務会        |                       |        |
| ●14                   | 教区報恩講 企画会だより          |        |
| 教区教化通信 研修部門           |                       |        |
| ●16                   | 聖典学習会 講義ノート           |        |
| 教区教化通信 「同和」協議会 山本 佳代子 |                       |        |
| ●18                   | 第1回部落問題基礎講座を受けて 三島 法遵 |        |
| 教区教化通信 大谷保育協会         |                       |        |
| ●19                   | 子育ての大地                | 中上 玲子  |
| 組の現場から 東京1組           |                       |        |
| ●20                   | 住職寺族研修会               | 花園 一実  |
| 組の現場から 東京8組           |                       |        |
| ●21                   | 組発行 書籍の紹介             | 小笠原 翔  |
| はい！こちら真宗会館です          |                       |        |
| ●22                   | 駐在日記                  | 佐々木 弘明 |
| はい！こちら真宗会館です          |                       |        |
| ●23                   | 所員のつぶやき               | 田鶴浦 裕  |
| はい！こちら真宗会館です          |                       |        |
| ●24                   | 人事異動挨拶                |        |
| <br>                  |                       |        |
| ●27                   | 敬弔・涌                  | 朝倉 俊隆  |

—2023年 宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年 謹賀テーマ—



## 人と生まれたことの意味をたずねていこう

### 「縁を慶び讃える法要



教区慶讃事業企画運営委員／教区門徒会長

柴崎 光(しばさき あきら)

(茨城1組 一乗寺)

ます。

「慶讃法要の意義を学ぶ研修会」では、酒井義一氏が「慶讃法要の願いについて」、白山勝久氏が「慶讃テーマについて」、そして私が「慶讃法要への想い」をお話させて頂きます。酒井氏と白山氏は今回の慶讃法要の準備段階から深く関わられて来られた方々であり、その想いの深い部分をお話し頂けるであろうと私も大変楽しみにしております。ぜひ当日の配信をお聞き頂きたいと思います。

今回、10月15日開催の「慶讃法要の意義を学ぶ研修会」でお話をさせて頂くことになり、その前段として今回の『ネットワーク9(以下、NW9)』への寄稿をということになりましたわけですが、改めて慶讃法要を私なりに見つめ直す良い機会を頂いたと感じております。

さて、寄稿のためにこれまでの記録などを見直し、改めて私と慶讃法要との関係を見つめ直してみますと、『NW9』2021年1月号掲載の「東京教区の『慶讃事業企画運営委員会』が始動した旨の報告記事」が私と「宗

父の葬儀でお世話になつたばかりのご住職からのお話ということもあり、お受けしました。今考えると、そんな安請け合いで良かつたのか？とも思いますが、それもまた「縁である」と思います。毎月第三土曜日に開催される「三士会」では、勤行を行つた後に教

年慶讃法要」との本格的な関わりの第一歩でした。教区門徒会員1期目を終わろうかといふ時期であり、「この委員をお受けすることには次の3年間も常任委員を継続することになるのだろうな」とぼんやり考えていたことがあります。

実は私と宗祖親鸞聖人に関する法要には浅からぬご縁があります。私は四国の愛媛県に生まれました。あの「ポンジユース」で有名なミカンの国です。実家の菩提寺は臨済宗の禅寺でした。真宗大谷派とのご縁が出来たのは結婚に際して家内の二両親との養子縁組を行つたからです。その父が亡くなつたのが2008年の8月のことでした。父の葬儀も終わつたある日のこと、お手次寺である茨城1組一乗寺の田上住職から、「同朋の会」の一つである「三士会」への参加と同時に「親鸞聖人に人生を学ぶ講座」への参加も打診されたのでした。特段お断りする理由もなく、

父の葬儀でお世話になつたばかりのご住職からのお話ということもあり、お受けしました。今考えると、そんな安請け合いで良かつたのか？とも思いますが、それもまた「縁である」と思います。毎月第三土曜日に開催される「三士会」では、勤行を行つた後に教

化冊子である「真宗の生活」を題材とした聞法を行い、最後に（これが楽しみで参加継続できたのかかもしれません）懇親を深める会食を行っています。現在はコロナ禍であり、会食が行えないことが非常に残念です。

話が少しそれてしまいました。肝心の「私と宗祖親鸞聖人に関する法要の浅からぬご縁」ですが、「親鸞聖人に人生を学ぶ講座」への参加のことです。この講座は、実は2011年に勤められた「宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌」に関連して東京教区で開設された講座だったのです。茨城1組では全6回の講座を3年間で行いました。

『NW9』7月号で白山氏が「今回の慶讃法要は親鸞聖人の『御誕生』と『立教開宗』というふたつの出来事を祝う法要ではなく、『御誕生・立教開宗』を慶讃する法要である」と思い至った」と記されていますが、私はこれを、七高僧を始めとした方々から親鸞聖人に伝えられた「念佛の教え」が『御誕生・立教開宗』という一連の出来事によって後世に連綿と受け継がれ、そして今、お手次寺の住職から今まで伝えられた、このご縁を慶び讃える法要であると理解しました。私に縁を結ぶきっかけを作つて頂いた住職には大変感

謝しております。いつの時代であつても初めの「縁を作るためのアクション」が「言うは易く行うは難し」であることは間違いないと私は思います。

最後に、慶讃法要のテーマであります「南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう」についてですが、先に説明した講座で使用された冊子の冒頭部分にある「親鸞聖人に人生を学ぶ講座 開設の願い」

に「この講座に集う一人ひとりが、宗祖としての親鸞聖人に出遇い、そして自分自身に出遇い、生きる」との本当の意欲が生まれる場となることを願つてやみません」と記されている通りだと頂いています。私に届いた念仏の教えを後に伝えてゆくために。

## 今後の慶讃事業予定

### ・慶讃法要の意義を学ぶ研修会

**【期日】** 2021年10月15日（金）14時～15時30分

**【開催方法】** YouTube でのライブ配信（下記QRコードからアクセスできます。）

**【お話し】** 酒井 義一 氏（東京5組 存明寺）

教区慶讃事業企画運営委員／宗務審議会「慶讃法要基本計画に関する委員会」会長代理・「教学・教化に関する小委員会」主査

**白山 勝久 氏**（東京5組 西蓮寺）

教区慶讃事業企画運営委員／慶讃法要テーマに関する教学検討委員会委員

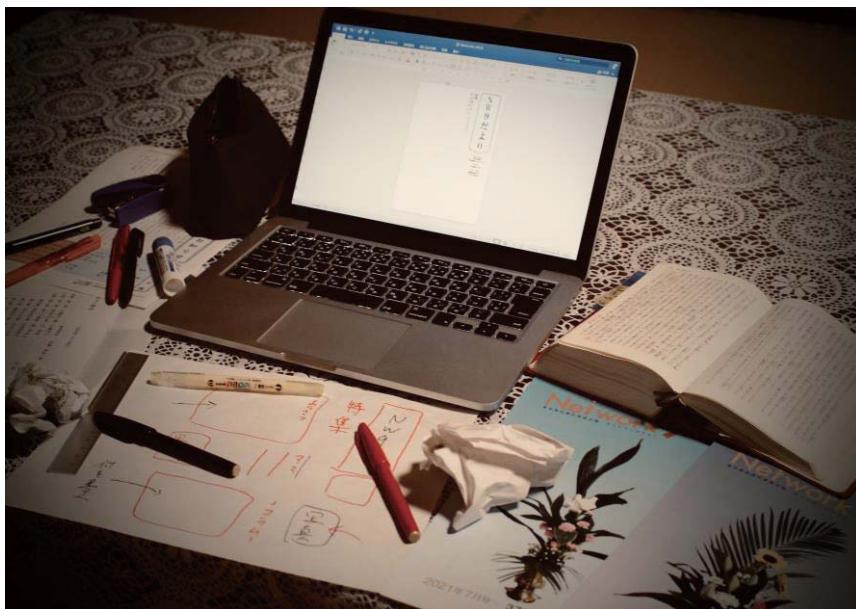
**柴崎 光 氏**（茨城1組 一乗寺門徒）

教区慶讃事業企画運営委員／教区門徒会会長



# デジタル最盛期にアナログで

寺報作りがなかなか進まない様子（写真はイメージ）



## 文字と紙で思い届ける 特集「寺報」

新型コロナウイルス  
感染症拡大の影響により、人と直接顔を合わせる事が難しい状況が続いている。会議や寄り合いの場を設けることができずに、もどかしい気持ちになつてしまふ。このような状況下でも、御門徒の皆さんに何かを伝えたいと考えの方もいらっしゃることと思う。

そこで、今回の特集では「寺報づくり」について取り上げる。コロナ禍となり、世間ではテレワークが推奨されだしたが、時代の変化に追いつくことはなかなか難しい。デジタ

ル最盛期の現代で、「寺報」という昔からのアナログな手法に原点回帰をしてみたい。寺報を作り上げるには労力が必要となるが、現代で求められている手軽さ、便利さからは得られない寺報ならではの人との繋がりといふものがあるのではないかと思う。

また、今回の特集取材を通して、寺報に対する印象を受けた。寺報作成者の思いや苦労に触れ、寺報づくりの大切さを再確認することができた。

（中村 晃）

## 手書きの寺報 製作者 胸中を語る



高徳寺（東京5組）の住職である新井義雄氏は寺報『おかげさん』をすべて手書きで書かれている。表紙の

絵から、文章に至るまですべてだ。パソコンが普及している時代にも関わらず、何故手書きで寺報作成を続けるのか。表紙の絵を拝見したが、並々ならぬ労力が寺報に注ぎ込まれている。今回の取材で、新井氏はそこに込められた思いを語つて

いかと思う。

手書き寺報『おかげさん』製作者

新井義雄氏インタビュー

「新井さんの経歴について教えてください」

東洋大学インド哲学科（現在は東洋思想文化学科に統合）を卒業後、両国にあるアパレルメーカーに就職し、2年間働いていました。1年目は倉庫番をしていました。そして2年目になつて営業としていくつかの店を担当させてもらつた矢先に祖父が亡くなり、通夜の際に父から仕事を辞めて高徳寺に入つてくれないかと言われ、散々悩みましたが、その年の春に会社を辞めて高徳寺へ帰つてきたのが1990年です。それから30年以上が経つて

います。  
生まれは高徳寺ですが、鉄筋の本堂へ建て替える話が出た中学3年の時に、進学の為、一旦お寺を離れました。高校は東洋大学付属牛久高校に進学をして我孫子から高校につつっていました。田舎なので非常にのびのびと3年間を過ごさせていただきました。都立の高校へ行つた同級生は随分とハイカラな遊びをしていましたが、私は田んぼのあぜ道をスクーターで走つっていました。

「寺報『おかげさん』を作成するようになつた経緯をお聞かせください」

寺報の『おかげさん』は春夏秋冬と年に4回発行しています。これらとは別に別冊を発行するときもあります。

当時、伯母一家がお寺に居て、病気をしていた祖父の世話をしてくれていた時期がありました。このこともあり、高徳寺の報恩講はお休みしていました。当時、真宗会館にお勤めだった海法龍さんの「報恩講をお勧めしないお寺は真宗じやないね」のお言葉をきつかけに報恩講をお勧めすることになり、皆さんに法要のことをお伝えしようとしたのが『お

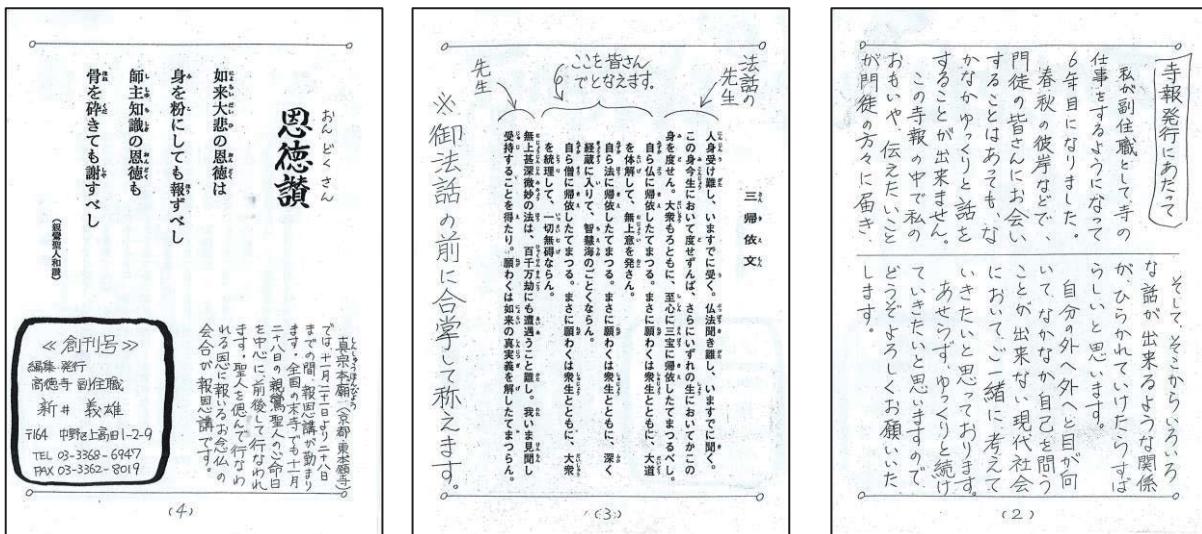


『おかげさん』創刊号の表紙

かげさん』の始まりです。この創刊号の発行は1997年でした。当時はボールペン書きで、紙を折つただけの4頁でした。

お恥ずかしい話ですが、私が会社を辞めて自坊に戻つたときは参詣の方はほとんどおらず、たまに来る方に聞いても高徳寺が何宗なのか知らない人がほとんどでした。ご門徒さんが自分のお寺の宗派を知らなかつたことに衝撃を受けて、何かお知らせするものを作らねばという思いが自分の中に出できました。もう一つきっかけといえば、若手寺族向けの勉強会である伝道講習会に参加した時に、会の最後に「講習会で学んだことの中で何を自坊に持ち帰るのか」という話を皆の前でするのですが、そこで「寺報を出したい」と言つてしまつたのです。当時の教区駐在教導だった故・加藤真人さんに、「新井くん、伝道講習会で言つたのだから寺報を出さないとね」と言われて、報恩講に向けて創刊号を出した。

表紙にボールペンで本堂の仏花を描いて、報恩講の日程や発行に当たつての文を書くなど、小学校低学年の作文みたいでしたね。あとは三帰依文、裏には恩徳讃と真宗本廟での御正忌のことを書いた4頁のものでした。



『おかげさん』創刊号の中身

何故手書きかというと、東京5組の酒井義一さんに『生きる』という存明寺の寺報を頂いたのですが、それが全部手書き（当時）だつたことに衝撃を受けたからです。個人的に活字ばかりを読んでいると目が酔つちゃつて読みづらい。なので酒井さんの手書きの寺報はスッと入ってきました。私も寺報を作るながら手書きにしようと思いました。あと、もう一つ言えば、当時のワープロの操作がよく分からなかつたのもあります。手で描いた方が作業が早いと思い、これも重要な理由かもしれません。

一寺報1冊を作るのにどれくらいの時間がかかるのですか？

徹夜などをしても1日で終わらせるといふことはないです。いつも表紙の絵が描き上がるところが出てきますね。仕事と仕事の合間や、お酒を飲みに行かない日とか、早く起きてとか、ちよつとずつ書くのでどれくらいの時間がかかっているかよく分かりません。取り掛かろうとすると電話が来たりして、なかなか集中できないので、電話が来ない時間帯に書いています。

一表紙に描くもののアイデアはどうしているのですか？

原稿の文字は下書きをしていますか？

旅行会があつたときには、旅先で出会ったものなどを描きますが、後はだいたい「これを描こうかな」とピンと来たものを描きます。自分の捷として、自分が出す寺報だから何を描いてもいいということにしています。それだけが救いですね。表紙は「あることに関連するものだけ」と決めてしまふと後が辛くなってしまいますから。

一表紙の絵を描くときは何を使って描かれているのですか？

基本は、筆です。ボールペンでちょっと足したり、下書きしたりすることもあります。ボールペンで下書きをした後に筆で描くとボールペンの跡が残るので、基本は鉛筆で下書きを描いて、消しゴムで消してからその上に筆で描いています。

原稿の文字は下書きをしていますか？

原稿の文字に関しては下書きせずに、考え



寺報を作成している時の様子

たままいきなり書き込んでいます。昔は文章の書き出しと終わりで文字の大きさが全然違うということもありました。今は、別の紙に書いた原稿を切って貼つてをする原始的な手法で整えています。簡単に編集できるのが紙の良さです。ワードの操作が分からなくて悩む時間がもったいないので、手書きの方が私にはいいですね。

### 一作業部屋を用意しているのですかー

作業部屋があつたらいいですよね。そういう

う作業部屋は、ないです。皆の用が終わつた後のリビングの大きい机に紙を広げて書いたり、寺務室で書いたりしています。リビングで書いていると家族から「そこ使うんだけど」と言われてそそくさと引っ越しをしたりしています。

### 一手書き寺報を配布したときの「門徒さんの反応はいかがでしたかー

創刊号に関しては、報恩講の日程が書いてあるので皆さん持つて帰つてくれました。1号から『おかげさん』の形になつて、2号目のシシャモを焼いている七輪の絵を表紙にしたときに、ある「門徒さん」の夫婦が来て、「よくぞ、こういうのを出してくれました」と言って、(ポチ袋にお金が入つた)お祝いをいたいことがありまして、それがすごく嬉しかつたから、3号目も書こうと思いました。ただ、墓地に行くとゴミ箱に捨ててあつたこともあります、見つけたときはショックでした。でも、そのことがパワーとなつて現在に至っています。

### 一ホームページに寺報が掲載してありますが、『門徒さんにはどのように寺報をお渡ししているのでしょうかー

年末の新年号だけはカレンダーなどと一緒に紙に印刷した寺報をお送りしています。それと春秋の彼岸、夏のお盆でお寺にお参りに来られた方には直接寺報をお渡ししています。今朝、『門徒さん』が維持費を現金書留で送つてこられたのですが、この方はコロナ禍で、春と夏にはお寺にお参りに来られていなかつたので、領収書を送る際に、お手紙と一緒に春号と夏号の『おかげさん』も同封する予定です。このような形で寺報をお渡しすることもあります。

### 一寺報はどのように配布していますかー

印刷は印刷屋さんにお願いしています。以前は印刷した寺報は、『門徒さん』だけでなく、他の寺院や友達などたくさんの方に送付していました。ホームページにバツクナンバーを掲載するようになってからは半分以上の方がネットで読まれているということがわかり、紙の寺報を送る枚数は以前よりも減りました。

「パソコンで見れるようになったのは便利ですね」

スマホやパソコンを持つている人は高徳寺のホームページも見てくれているようで、『おかげさん』も読んでいるという人が最近は増えて来ています。「ついでにこの紙の寺報も貰つていきます」と言つてお持ち帰りになる人もたまにいます。

「よくできたなと思つ寺報はありましたかー

毎回全力投球でやつてしているので、これだというのはないですが、逆にこの絵はダメだなというのもあります。早く在庫が無くなつてしまいと、いろいろな先生の法話を載せる『別冊』は季節性関係なく読んでいただけるので多めに作っています。少しですが真宗会館にも置かせてもらつています。教区の駐在さんから来館されるご門徒さんが『おかげさん』を読んでくださつていると聞きました。そういう縁もあるのだと嬉しく思いました。

「手書きの寺報を書き続けることは大変なことだと思いますが、モチベーションを維持する秘訣を教えて下さいー

亡くなつた住職が、「会社を辞めてお寺に帰つてきてくれ」と言つた割には、寺報を出すことには反対でした。きっと続かないとしても思つたのでしょうか。その後、5号6号と続き、周りに認知されると「寺報の編集者の名前はオレにしろ」と言つてきたのです。頭に来ましたが、なんだかんだ言つても認められたのだと思い、やる気に火が着きましたね。

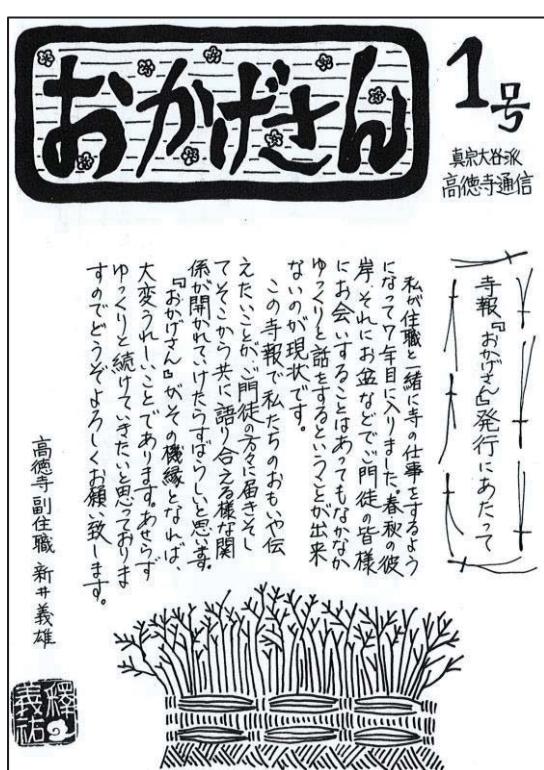
それと、もともとやろうと決めたら最後までやり抜こうという性格だということがあるかもしれません。自分でもよく続いているなど思ひます。

ただ、一度だけ発行できなかつた号があります。教学館の卒業旅行でベトナムに行つた時のことをまとめた別冊、『ベトナム見聞録』を作つていたのですが、表紙を書いて、さらに何ページか書いていた後になぜか途中で止めてしましました。なぜなのかと自分なり

に分析したところ、別冊には締め切りが無かつたということに至りました。ちなみに春夏秋冬と年に4回発行の寺報には締め切りがありますので、何が何でも書き上げます。『ベトナム見聞録』の表紙の絵はとても良く描けていたので今思えば残念です。

「寺報を作成する中での苦労話をお聞かせくださいー

書きたいことが浮かんでこないとつらいですね。そんな時は色々な聞法会に足を運んで



『おかげさん』第1号で述べられた寺報に込められた思い



過去の表紙絵の一部

過去の『おかげさん』が高徳寺のホームページで閲覧可能です。



<https://www.koutokuji.or.jp>

刺激を受けたり、頂いた他のお寺さんの寺報を読んで、思ったことや感じたことを書いたりもします。あとはご門徒さんからの質問をノートに書き溜めて、その質問について書いたりします。表紙にいいなと思つたアイデアをノートに記録するようにもしています。

「聞法会への出席が寺報に反映されているようですね」

くので、そういうところに足が向かない自分を追い込むには打って付けの場だつたと思います。色々な先生からのお話や、そこでの出会いが寺報にも反映されています。

「これから寺報を作成しようと考えている方へアドバイスをお願いします」

教区教化委員会の「同朋の会推進部門」に15年くらい関わっていました。この部門は会議や事業の聞法会で、ご門徒さんと一緒に準備をしたり聞法会をしたりします。一緒にお酒などを飲んで語り合う関係がいいなと思います。それにスタッフになると必ず聞法会に行

始めて苦痛なだけですから始める方がいいかもしれませんね。「人がやっているから」とか「自分のお寺だけ寺報を出していないから出す」という理由でスタートを切ると続かないのではないかと思います。逆に自分が好きな事、得意分野、自分が日々感じていること、疑問点などをお伝えしていけば、読者の

方は受け取つてくださるのではないかと思います。例えば自分は『歎異抄』を勉強しています。私は『歎異抄』をこのようにいただいていますという事を発信したら、読んでくださいました方と一緒に共有していけると思います。今の時代は寺報だけが手段ではないと思いますから、お伝えしたいものがあるなら寺報に限らず、何かできることから始めていけば良いのではないかと思います。

「一本日はお話をお聞かせいただき、まことにありがとうございました。寺報に込められた新井さんの思いを垣間見ることができます」

## ♪寺報を作つてみよう♪

これから寺報を作ろうと思つても、最初は何をしたらいいかわからないという方も多いのではないかと思います。そこで、しんらん交流館のホームページで無料で提供されている「寺報ハガキ」と「寺報の雛形」、東京教区で発行している「掲示伝道ポスターミニ」を紹介いたします。

### 寺報ハガキ

寺報作成時に諸行事の案内や、ちょっとしたお知らせを門徒さんに送付したいというときに「寺報ハガキ」が便利です。法語と合わせて必要な情報をハガキ一枚でお伝えすることができます。

しんらん交流館のホームページよりダウンロードをして、印刷をすればすぐに利用できます。また、パソコン作業に慣れた方は自由にレイアウトや法語を編集することが可能です。

「寺報ハガキ」の詳細や、ダウンロードは【しんらん交流館 寺報ハガキ】で検索。もしくは、下記の QR コードよりお願いいたします。



法語は12種類の中から選べる

差出人の情報を記載

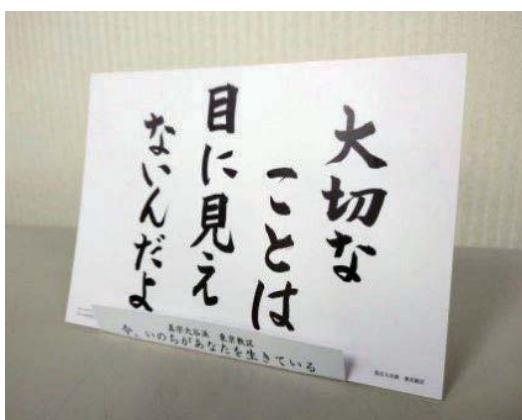
お伝えしたい行事の案内や、お知らせを記載するスペースがある  
臨終まつことなし、  
来迎たのむことなし  
信心のさだまるとき、  
往生またさだまるなり  
未遂勢

お伝えしたい行事の案内や、お知らせを記載するスペースがある

## 掲示伝道ポスターミニ

生活の中で、より身近に「ことば」に触れていただけるように掲示伝道ポスターのミニサイズを東京教区では発行しています。「自宅の玄関等に「ことば」を飾ったり、有縁の方へ「ことば」の贈り物としても活用できます。裏面には法語のあじわいを掲載しています。裏面には法語のあじわいを掲載します。

各6枚入りで、簡易スタンド付き。ハガキサイズで100円にて販売しております。詳しくは真宗会館（東京教務所）までお問い合わせください。



掲示伝道ポスターミニ

## 寺報の雛形

しんらん交流館では、これから寺報を作成しようという方のための情報をホームページに公開しています。寺報の雛形データの公開だけではなく、寺報とはそもそも何なのか？発行することの意義はどこにあるのか？掲載内容はどういうものが考えられるのか？など、基本的なところから確かめ、学ぶことのできる内容となっております。

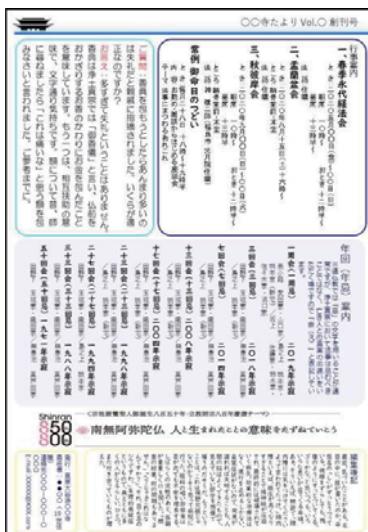
また、寺報の雛形に関しては、寺報作成のアドバイスだけではなく、パソコンソフトの操作方法、手書きでの作成方法に関しても触れております。

寺報作成になかなか踏み切れない方にとって、ためになる情報が満載です。この機会にぜひご覧ください。

詳細は、しんらん交流館ホームページにアクセスしていただくか、下記のQRコードよりお願いいたします。



<https://jodo-shinshu.info>



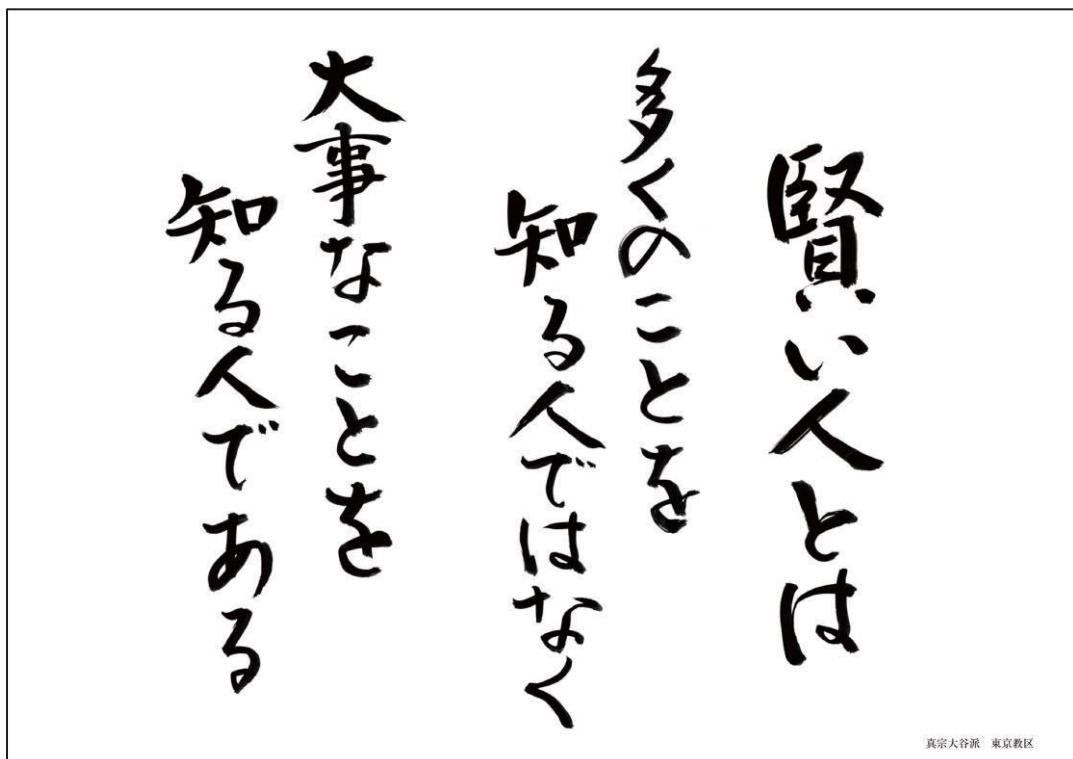
しんらん交流館で提供されている寺報雛形の見本

カラー・バリエーションは3種類の中から選べるようになっています。また、配布しているデータの形式もワード形式、パワー・ポイント形式と、普段使い慣れたソフトで利用できるようになっています。文章を書き換えるだけで寺報が作成できます。また、パソコン操作に不慣れな方向けに、手書き用の雛形も用意しております。枠線のみが引いてあり、好みの箇所に写真などを貼り付けて自由に作成ができます。

しんらん交流館では、前回、好評であった寺報作成のオンライン講習会を年明けに予定しております。興味のある方は受講してみてください。また、状況が変われば今後は直接出向してのセミナーも検討しているとのことです。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で人と顔を合わせることがなかなか叶わない状況が続いています。今まで当たり前にできていた事ができなくなつた時に、初めてその事のありがたさを痛感いたします。今できる一つとして、寺報で思いを伝え、人との繋がりを再確認するのはいかがでしょうか。

## 今月の法語



書：佐藤 多仙

- ・頒布中「掲示伝道用ポスター」(A2 サイズ)  
「掲示伝道ポスターミニ」(ポストカードサイズ)
- ・「掲示伝道用ポスター」が貼れる門徒宅用掲示板を無償設置いたします。  
詳細は東京教務所まで。

## 教区報恩講企画会だより

教区報恩講企画会

# オンライン 報恩講

2022年1月28日(金)

13:30~(一座法要)

教区報恩講は、例年1月26日の帰敬式、27日、28日の一昼夜にて厳修してまいりました。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、昨年度同様にオンラインにて厳修することが決定いたしました。

ご法話には、海 法龍氏(三浦組 長願寺)を講師としてお招きし、東本願寺「真宗会館」よりYouTubeライブ配信をいたします。

## 留意事項

今年度の教区報恩講の厳修について、左記のとおり決定しましたので、ご留意ください。

### 1、帰敬式

誠に申し訳ありませんが、昨年度に続いて今年度も中止といたします。

### 2、参詣

真宗会館への参詣は、「遠慮いただき、勤行・法話は、YouTubeライブ配信をご視聴ください。」

### 3、おみがき

例年、日曜礼拝後に参詣者に「参加いただき実施してまいりましたが、今年度は昨年度同様に教区報恩講企画会・真宗会館職員にて行います。」

### 4、仏花立て

本年は仏花立ての公開は行いません。

## 昨年度の教区報恩講がご視聴いただけます



2021年1月28日に厳修しました教区報恩講の様子（法要、感話、法話）をYouTubeにて公開しておりますので、ぜひご覧ください。



<https://youtu.be/sQNrzMRKx7Q>



### 5、その他中止事項

- ・一般出仕
- ・担当組の出仕
- ・一般参詣及び団体参拝
- ・雅楽出仕
- ・お斎接待
- ・練馬駅真宗会館間の無料バス
- ・Tokyoサンガ9の合唱
- ・報恩講の夕べ
- ・同朋社会推進ネットワークの
- ・大谷保育協会「園児絵画展」
- ・真宗会館書道教室書道展
- ・炊き出し実演

何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

ご不明な点は東京教務所（担当：渡邊 誉・菊戀（きくやま））までお問合せください。

## 聖典学習会 「正信偈」に学ぶ

講師：一樂 真（大谷大学教授）

道綽決聖道難証（至安養界証妙果）

### 【6月7日の講義 一部抜粋要約】

「下品下生」というは、あるいは衆生ありて、不善業たる五逆・十悪を作る。もちろんの不善を具せるかくのごときの愚人、悪業をもつてのゆえに悪道に墮すべし。多劫を経歴して、苦を受くること窮まりなからん。

『仏説觀無量寿經』真宗聖典120頁  
親鸞聖人の時代には生き物を殺すことを生業にしておられるることを、世間からは「屠沽の下類」という言葉で言われていました。しかし、親鸞聖人は下類、下品下生のところに自分を見ておられ、「いし・かわら・つぶてのとくなるわれらなり」と言い切つて、本願に出遇うところに道が開けるということを掲げていかされました。

不真面目に生きてきたのではなく、一生懸命に生きるなかで、人を傷つけたり命を奪つたりすることをやつてきたということを「五

逆・十悪を作る」また「諸々の不善を貪せるかくのごときの愚人」と言っています。ここはお經が非常に厳密だなと思うところで、悪を作ったのだから、かくの「ごときの愚人」と言つてもよさうですが、本人は一生懸命に生きているわけですから「愚人」なのです。

『觀經』の中心主題である王舍城の悲劇もそうでしょう。阿闍世も韋提希も不真面目に生きてきたのでしょうか。もつと言えば殺された頻婆娑羅王も不真面目に生きていたのでしょうか。お釈迦さまに背いた提婆達多もそれなりに一生懸命だったと思います。ところが提婆達多はお釈迦さまを傷つけてしまう。

少なくとも『觀經』では非常に大事なこととして下品のところではずっと言われます。「善知識」はいわゆる先生のことですが、先生といつても人生の先生です。蓮如上人で言えば、「後生の一大事」を教えてくれる先生でしょう。知識をたくさん持つていていうことはなくて、死んでいくという時に私の一生はこれでよかつたのか、方向を与えてくれる。それはなぜかといえば、自分に先立つて悩み、苦しみをくぐつて生きてきた声に耳を澄ませなければいけないということがある。

今まで作ってきた悪業によって悪道に墮して、とてつもない長い間苦しみを受けること終わりがないということですね。ところが、

そこに一人の「善知識」があらわれます。

かくのごときの愚人、命終の時に臨みて、善知識の、種々に安慰して、ために妙法を説き、教えて念佛せしむるに遇わん。（同）

仏を念じなさいということを教えてくれたというわけです。次の「一文がおもしろいですね。この人、苦に逼められて念佛するに遑あらず。

「遑あらず」とは余裕、暇がないのです。苦しくて心を落ち着けて阿弥陀仏を念ずるなんということはできないということです。

善友告げて言わく、「汝もし念ずるに能わずは、無量寿仏と称すべし」と。

( 同 )

ここに初めて称えるという字が出てきます。『觀經』では称名で、『大經』では「乃至十念」、念仏と対比しています。道綽 善導は称名と読んできたのですが、現代の仏教学者は『大經』の「乃至十念」は我々衆生の称名念佛とは違ないという人もたくさんいるという話をしましたね。一四〇〇年前でも、『大經』の「乃至十念」について、精神集中して心に仏の世界、あるいは仏さまのおすがたを念ずることだと言う人がいたと思います。そうすると精神を集中して仏を思い浮かべる余裕がない人は漏れていきます。はたして法藏菩薩は分け隔てるのだろうかという、このような問い合わせ道綽にはあつたのでしょうか。だからこそ『觀經』を読んで、『大經』の本願文の「乃至十念」と書かずに「十念相続して、我が名字を称せん」と、称名としてとらえたわけで

す。『觀經』と『大經』を併せて読んだ。本願文については『觀經』のお言葉から『大經』を読み直したということです。下品下生ですから一番救いから遠いと思われていた者、どんな状況にある者もふるい落とさず、分け隔てせず、漏らさないのが法藏の本願だということを示すために称名という字が選ばれていますね。

かつて谷田 晓峯先生から、この一文について質問を受けたことがあります。初めに

「善知識」となって、次に「善友」となつているでしょう。初めは先生としてあらわれ、「阿弥陀仏を念じなさい」と教えて、とても苦しくて聞く余裕がない。そうしたら今度は善友となつてくださったのではないかとおっしゃられたのです。先生が先生の顔をせずに、一緒に念佛する善友となり、きっと一緒に称名念佛してくれたのではないでしょうかと、このような受けとめはどうでしょうかと言わわれたのです。

私はそのように善知識と善友は同一人物か別人かということは考えたこともなかつたのですが、言われば本当にその通りだなと思いま、その受けとめはその通りではないでしょうかとお答えしました。

教えてそれを学ぶ余裕がないという状況でしよう。その時に善知識は「残念だなあ、さ

ようなら」とはなりませんよね。「それなら一緒に念佛をしよう」と言って、隣で念佛してくれるのだということをおさえてください。今はそう読みたいと思います。だから善知識も善友も別人ではなく、同じ人が違うかたちをとるのです。

我々も日常で先に学んでいたりすると、そういうことを教えましょかと導く根性といふものは湧いてくるわけですよ。ところが、実際は共に念佛するお仲間でしかないはずで、私も南無阿弥陀仏によつてたすけられいく凡夫なのですから。もちろん凡夫が凡夫を教えられないということはないですよ。

安田先生の言葉でいえば、迷つた人間が人を目覚ませるということもあると言つておられました。迷つている人間が迷わせることがたくさんありますけれども、迷つた人間のすぐたを見つけて、別の人間が目を覚ますこともあります。ですから凡夫が凡夫を導くというわけです。ですから凡夫が凡夫を導くということはありえないとは言いませんが、ここは共々念佛をするお仲間として、善知識が善友となつてくださっているということを今は強く思つています。

(文責：研修部門)

## 今後の聖典学習会の日程

10月25日(月) 13時～

\*お申込み 詳細については 東京教務所 (担当: 渡邊 悠)まで

## 第1回 部落問題基礎講座を受けて

千葉組 済真寺 門徒 山本 佳代子

第1回部落問題基礎講座をオンラインにて参加させていただきました。長年に渡つて真宗が抱えている問題を、一門徒にも公開して伝えて頂き感謝しております。

「観経の中の表現に現代の部落差別につながる、問題になっている箇所がある」程度の認識しかなかつた私にとって、新たに伝えて頂けた中で特に心に刺さつたことを挙げてみます。

被差別部落にルーツのある方達の多くが同じ真宗門徒であること。法事その他で私たちがありがたくいただいているお経を聞くたびに、心をえぐられる想いをしていくこと。そして何より、サンガを大切にしてきたはずなのに、想うこと、傷付いていることを声に出せずにいたこと。その想いを表現するのにお水平社に始まる一連の流れの形を取らざ

るをえなかつたこと。ここまで、当事者の方達にどれだけの想いがあつたのでしょうか。

今、一門徒として願うのは、心に刺さる想いを言葉に出せる場を、見渡せる範囲からでも広げていけたらと思います。

教学の問題等々、先生方の真摯な見解を待ちたい反面、「正しさ」に頼つて、より大切なものを見失わないよう、出来ることを一つずつ積み重ねていけるようになりたいと思いました。沢山の気付きと考える機会をいただき、感謝いたします。

一方、同じく『観経』には「一切衆生」という言葉が出てきます。ではこの言葉に願われていることは何なのか。それを思う時、「一切衆生」と願われ呼びかけられる身として私は、「共に」という視点を真に頂けていただろうかと内省せざにはいられません。「そんな私自身の無明と、どこまでも向き合い続けていく」という、それだけでは済まされない重さをこの問題に感じています。

横浜組 遊林寺 衆徒 三島 法遵

『観経』では、母殺しを諫めるために「是旃陀羅」という言葉を用いて旃陀羅を貶めています。そして後、『観経』中にはもう「旃



## みんなちがってみんないい

長野県の南部に位置する飯田市にある慈光松尾保育園は、2010年、市からの経営移管を受けて始まった250人定員の保育園です。山に囲まれた温暖な風土で、耳をすませば自然の中の多様な音が聴こえます。

昨年度は、慈光福祉会50周年、本園は創立10周年のお祝いの年でしたが、コロナ禍の中にあって、残念ながら記念行事はすべて中止となっ

てしましました。しかし、記念の年に理事長先生が作詞をした福祉会の歌「みみをすまして」は、園児たちにとっても職員にとっても大変うれしいプレゼントになりました。福祉会には、母体となった慈光保育園と本園がありますが、どちらの園でも創立以来初めての“園歌”

に感激もひとしおでした。私は、その園歌の2番の歌詞に真宗保育の真髄を学び、これからこの本園の道標となっていることを感じています。



慈しみの光の中で みんなで育つ保育園  
七つの海に橋掛けて 大きな輪をつくろうよ  
見ていて下さる ほとけさま

高松 和子 作詞

私たち一人一人には何人にも変わることができない、かけがえのない「いのち」が与えられています。その子らしく現在を幸せに生活し、未来を生きる力を育てるために、『みんなちがってみんないい』という多様性を大切にした保育の理念を丁寧に実現させていきたいと思います。

今年は東京2020オリンピックが開催され、テレビの前で各国の選手に声援を送りました。次に開催が予定されているパラリンピックにおいても、アスリートが夢を叶えようとするパワーや、最後までやり遂げようとするひたむきな姿を子どもたちと共に応援したいなあと思っています。(執筆:2021年8月)

社会福祉法人 慈光福祉会

慈光松尾保育園

(長野県飯田市)

園長 中上 玲子





教区  
組の現場から

東京1組

## 住職寺族研修会

報告 花園一実(圓照寺)

▼サテライト会場と  
オンラインによる  
ハイブリッド開催で実施



▲オンラインによる  
下田正弘氏の講義



6月25日、東京1組において組内の住職寺族を対象とする研修会が行われた。今年度の講師は大乗仏典研究において名高い下田正弘氏（東京大学大学院人文社会系研究科教授）で、「大乗經典の形成と淨土經典～仏教の歴史を問い合わせ直す」というテーマにて2時間の講義をいただいた。

下田氏は昨年出版された『仏教とエクリチユール』（東京大学出版）という本の中で、これまで謎が多くかった大乗仏教の成立過程について、全く新しい切り口からその本質を尋ねられている。これまで、部派仏教の中でも革新性の強い大衆部から派生してきたという説や、仏塔を管理していた在豪集団から生み出されたという説など、大乗仏教の起源は、歴史的なある一事象に還元されるようなかたちで理解してきた。

しかし下田氏は、もともと口頭で伝えられ

てきた教えが、經典として書記言語化されると、その伝承メディアの変質にこそ大乗出現の原型があるとし、大乗を一連のテクスト創成運動として位置付けられていった。つまり、教えを固定化、権威化し、決して変えてはならぬものとして守り続けるということではなく、今、自分が生きている時代の中で、經典を読み、伝えていくということ。その営みの中にこそ、大乗の大乗たる所以があるのであり、私たちが学んでいる淨土經典というものも、その連續性の中で生み出されていったということである。時代の流れに翻弄されるような毎日の中、非常に勇気を与えるられるような講義であった。

また今回は組としては初めての、会場とオンラインを併用したハイブリット式での研修となつたが、嬉しいことに坊守からも複数人の参加があつた。住職が寺を離れる、どうしても研修に参加することができないが、オンラインであれば参加できる。これは一つの大きなメリットであると感じた。

# 教区組の現場から

東京8組

## オンライン聞法会の書籍化

報告 小笠原翔（源通寺）

新型コロナウイルス感染拡大により、昨年の4月には1回目の緊急事態宣言が発出されました。この宣言の後も周知の通り感染拡大が収まることではなく、3密回避が基本の生活となり、人が集まることに気を遣うような状況の中、昨年度は様々な事業をどのように展開していくかという課題を抱えながら始ましたように思います。

東京8組の教化事業の中心には、隔月で開催されている「東京8組聞法会」があります。

この聞法会は、コロナ以前は毎回平均で50～60名の門徒が聴聞に来られていきました。コロナの状況になつて私が一番悩んだことは、この会の開催をどうするかということでした。以前から「東京8組聞法会は多くの先輩方のご苦労の上に成り立ち、それが受け継がれている」と聞いていたこともあり、そのような大切な会を中止にしたくないという思いから、

オンライン会議ツール「Zoom」を使用しての開催に至りました。

オンラインで聞法会を開催するにあたり、これまで継続してきたテーマを一旦休止し、組の教化委員や講師の本多雅人先生（東京2組・蓮光寺住職）と相談を重ね、「感染症と人間の傲慢性」という特別テーマで、計4回（うち1回はZoomのブレイクアウトルーム機能を利用した班別座談）行いました。

そして、オンライン開催ではインターネット環境の問題などでどうしても参加出来ない方が出てくるため、当日のお話を文字に起こしたものを見書き化し、組内の全聞法会員に郵送にて配布しました。当初は要旨をまとめた簡易的な小冊子をイメージしていましたが、実際に文字起こしをして本多先生に校正していただき中で、気がつけば『感染症と人間の傲慢性』『感染症と人間の傲慢性Ⅱ』という

2冊の本が完成していました。  
「法話の内容と世情が一致している」ということもあり、他組の御寺院や他教区の方からも反響をいただいております。コロナウイルスの感染拡大という状況を縁に完成したこの本が、東京8組聞法会という枠を超えて、多くの方々の目に触れるということは、とても有り難く有意義なことだと思つております。



◆価格：1冊300円

出版：東京8組聞法会

著者：本多 雅人

お求めは東京8組事務局 ([20tokyohachikumi20@gmail.com](mailto:20tokyohachikumi20@gmail.com))まで

はい！こちら真宗会館です

# 駐在日記



駐在からひとこと

写真：真宗会館探訪！

「正面玄関入口の蓮の鉢」

東京教区駐在教導

佐々木 弘明

## 「メダカの成長」

数年前から、我が家はメダカとともに暮らしている。子どもが友人からいただいてきたことがメダカとの生活の始まりだったが、水槽の水を換えたりするうちに、今では近隣のメダカを扱っている熱帯魚店に足を運ぶようになるほど、子どもより私がメダカに夢中になっている。

今年も産卵期（通常は春から夏にかけて産卵し、かえった稚魚は、夏・秋の間をかけて成長し、次の年に産卵する）に入り、多くの卵を産んでいる。

孵化した稚魚を成長させようとしたが、水や餌などの環境がメダカに合わなかったり、ベランダに置いていた稚魚を入れた発泡スチロールを子どもたちが誤って壊し、稚魚が流れ出てしまったり、育つ前にこれまで何度もいたちを終えてしまっていた。そのたびにメダカの稚魚の育て方を調べたり、聞いたりして、試行錯誤しながらメダカの稚魚にとって生きやすい環境づくり

をしているつもりだったが、結果的にはなかなかうまくいくことがなかった。

そんな状況のなか、やっとのことで1匹の稚魚が、大人メダカに近づきつつある。その稚魚は、大人メダカとは別の水槽に入れていたが、新たな稚魚を育てるため、大人メダカの水槽に移すことにした。移してみると、これまでとは違う環境のため、最初は大人メダカに追い回されたりして、戸惑っている様子だったが、今ではその環境を受け入れ、堂々と泳いでいる。ほかのメダカも、その稚魚を受け入れているように見受けられる。

メダカの成長を見守りながら、私自身が生かされている現実（環境）に思いを巡らせたり、自分の思いと現実のギャップを考えさせられている。

ちなみに、真宗会館の入り口にある蓮の鉢の中でも、今年はメダカの稚魚が育っていた。

# はい！こちら 真宗会館 です



東京宗務出張所

主計事務取扱

田鶴浦 裕

担当：会計事務全般

好きな食べ物：ラーメン



新型コロナウイルスが蔓延する中、真宗会館でも一部テレワークが行えるようになった。

密を避けることが出来るのは喜ばしい反面、仕事の面から言うとやっぱり家で出来る業務というのは限られてきてしまう。

特に各メディアでも散々言われているが、他の職員とのコミュニケーションの取りづらさは顕著で、職場であれば声をかけるだけで済むものも、ちょっとした確認でもテレワークの場合は、わざわざチャットをしたり、電話をしたりしなければならず、かなり面倒くさい。

もう一つ、テレワークをしている中で気づいたことが、家の中には緑がまったくないということだ。テレワークの日は一日中家で仕事をすることになるので、ほとんど緑を見ることはない。

一日誰とも顔を合わせず仕事をし、

緑もまったく見ない日はダブルパンチで気分がどんよりしてしまってるのは私だけだろうか。

思い返してみると、普段まったく意識をしていなかったが、真宗会館の周りには思いのほか緑が多いことに気づかされる。

真宗会館から見える何気ない緑が、知らず知らずのうちに癒しを与えていたのかもしれない。

現在、コロナウイルスの感染状況は先の見えない状況が続いているので、これからますますテレワーク化が進むかもしれない。

そうなると、人と接することがますます難しくなるので、少しでもリフレッシュできるように観葉植物を購入した。お恥ずかしいことに一度枯らしてしまった経験があるが、今度こそは小さな緑を大切にしたい。

## 人事異動



### 離任

財務部書記 館 欣子



このたび、8月1日付で財務部書記を拝命  
した。初めての勤務地として真宗会館に来てから、7年という長い時間を過ごさせていただきました。

7年の間で、首都圏の広報や開教に関する業務の他、大学で専攻していた心理学を生かせる業務や会計に関する業務など、本当にたくさんのことを行なってきました。



### 着任

東京教務所書記 立野 正流



どの業務も、机に向かってパソコンを操作するだけの業務ではなく、教えを聞く人たちと出会い、首都圏という場所でどのように教えを伝えていけるのかを考え、そんな仕事だったなと思います。来たばかりの頃は、人と関わることがとても苦手で、いつも下を向いていた私が、いつの間にか人と積極的に関わろうとする自分になりました。それは、この7年間で出会った東京教区の皆さんや東京真宗同朋の会の皆さん、そして後ろ向きな私の声をかけ続けてくださった真宗会館職員の皆さんのおかげです。本当にありがとうございました。

真宗会館から離れたから終わりというわけではなく、これまで学んだことを生かし、今度は遠くから首都圏教化を支えていけるよう尽力したいと思います。引き続き変わらぬご指導を何卒よろしくお願ひいたします。

8月1日付で東京教務所書記を拝命しました立野正流と申します。出身は富山県で、自坊は高岡教区第3組西岸寺です。

前任地は、本山の研修部に所属しており、真宗本廟奉仕にて上山される方のお手伝いや、同朋会館教導・嘱託補導の招聘に携わらせていただきました。特に、招聘業務では普段お話しする機会もない方と話すことができ、非常に有意義な時間を過ごさせていただき、気が付いたら5年が経っていました。

また5年前、事務見習い期間の教務所実習の際に、東京教区に縁をいただき、1ヶ月半の短い期間でしたが、多くの方と出遇わせていただいたことが、昨日のように思えます。

このたび、8月1日付で東京宗務出張所書記補を拝命いたしました寺澤杏菜と申します。出身は愛知県の一宮市で、自坊は名古屋教区第4組です。今年の3月に大学を卒業し、4月から4ヶ月間の研修を経て、東京宗務出張所に配属となりました。関東を訪れたことがあまりなく、緊張でいっぱいです。



東京宗務出張所書記補

寺澤  
杏菜

このたび東京教区の皆様に再度ご縁をいただき、宗務にあたらせていたたく機会をいたしましたこと大変うれしく思います。

教務所事務は、右も左も分からない」とばかりで、毎日が怒濤のように過ぎていきますが一つひとつ丁寧に務めてまいりたいと思います。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。

業務では主に教化広報部門を担当させていただきます。首都圏における講座や、ホームページやインスタグラムといったSNSを通して親鸞聖人の教えに出遇うお手伝いをさせていただきます。また、業務や、様々なご縁のある方々との出遇いを大切にして、私自身も教えに出遇い、学んでいきたいと考えております。

初めてのことばかりで、地理も業務も不慣れなことが多々あり、ご迷惑をおかけするところもあるかと存じますが、精いっぱい努めてまいりたいと思いますので、どうぞご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひいたします。



## 退職

不動  
眞徳

8月5日付で退職いたしました、不動眞徳と申します。

東京宗務出張所で3年、東京教務所で2年お世話になりました。

東京教務所に配属になってからはコロナウイルスの感染拡大の影響により多くの事業が大幅に縮小・中止となり、もどかしい1年となりました。多くの会議がリモートにて行われ、退職に当たりお世話になりました多くの皆様にご挨拶ができなかつたのが心残りです。東京で起こっている多くの事は、数年後には地方都市でも起こるというお話をよく耳にしました。私の自坊は福岡にあり葬儀等に関しても地方の東京化が進んでいると実感しております。

東京にて経験させていただいたことを今後に活かせるよう精進して参りたいと思います。



日本基督教団  
御誕生  
立教開宗  
50周年  
真宗大谷派(東京教区)

**真宗大谷派 東京教区**

# 慶讃法要の意義を学ぶ研修会

**YouTube ライブ配信**

**2021年10月15日（金）14:00～配信開始**

南無阿弥陀仏 人と生まれたことの意味をたずねていこう



**YouTubeにてライブ配信を行います。**  
下記のURLまたは、QRコードからアクセスください。

<https://youtu.be/HrlWWG4tQt0>

14:00 開会  
 14:10 お話①慶讃法要の願いについて（酒井 義一 氏）  
 14:35 お話②慶讃テーマについて（白山 勝久 氏）  
 15:00 お話③慶讃法要への想い（柴崎 光 氏）  
 15:30 閉会

主催：慶讃事業企画運営委員会教化推進部会

**あなたと共に慶讃法要をお迎えしたい！**

2023年にお迎えする「宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年慶讃法要」。  
 そもそも「慶讃法要」って何？「御誕生と立教開宗」、どうしてふたつの事柄が並んでいるの？  
 「慶讃法要の意義を学ぶ研修会」をとおして、慶讃法要と慶讃テーマに込められた想いをお話いたします。  
 あなたもわたしも、阿弥陀様からの呼び声をいただいている御同朋です。  
 YouTube配信という画面越しではありますが、共に親鸞聖人の教えにふれましょう。

**講師紹介**

**酒井 義一 氏** (東京5組存明寺)



教区慶讃事業企画運営委員会  
委員／宗務審議会「慶讃法要  
基本計画に関する委員会」会  
長代理・「教学・教化に関する  
小委員会」主査

**白山 勝久 氏** (東京5組西蓮寺)



教区慶讃事業企画運営委員会  
委員／慶讃法要テーマに関す  
る教学検討委員会委員

**柴崎 光 氏** (茨城1組一乗寺門徒)



教区慶讃事業企画運営委員会  
委員／教区門徒会長

**予告 教区慶讃法要お待ち受け大会 2022年6月13日（月）**

会場：ライブ配信／講師：池田勇諦氏（三重教区西恩寺、真宗大谷派講師、同朋大学名誉教授）  
 「東京教区500カ寺をつなぐ オンラインお待ち受け大会」

問い合わせ 真宗大谷派東京教務所 03-5393-0810 / [tokyo@higashihonganji.or.jp](mailto:tokyo@higashihonganji.or.jp) (担当: 佐々木・渡邊栄・海)

## 敬弔

藤井 けき子 様

長野2組 蓮休寺 前坊守

6月29日命終 92歳

寺田 文子 様

東京3組 真淨寺 坊守

8月23日命終 90歳

生前のご功労を偲び、  
念仏合掌して哀悼の意を表します。

8月末日届出迄

# 涌

## 編集員の隨筆



全日本仏教会で働いて、職場での会話が楽しみである。だがオンライン会議では必要なことを話すだけ。終わったらみんなパ・バツと退席してしまうので、コミュニケーションの「のりしる」のようなものがない。

日直制で半数が在宅勤務をする中、請求書や現金といったオンライン化出来ていない仕事の為に職場に顔を出す。職場でのコロナ対策としては褒められたことではないのを承知で日直以外でも事務所におもむくのだが、自分が媒介者になつたらという恐れが抜けない。着任して4カ月、季節性の突発的な仕事に怯えはするが、通常業務には慣れた。予備知識が増えたので多少の判断もつくようになり、始めは戸惑いや疑念があつた職場での人間関係も、色々な話が出来るようになって緊張がほぐれるようになった。業務の事、他の部署の話、今後の見通し、宗派の考え方。いつも仕事の話からしか切り出せないので、会話に

苦手意識が抜けないが、それでも言葉のキヤッチボールをするのは楽しく、刺激的だ。

コロナでこういう日常を破壊されたのだとつくづく思う。下戸のためお酒の席は苦手なのだが、今は誰かと飲みに行きたくてしかたがない。下戸の自分にそういう日がくるとは思わなかつた。緊急事態宣言により職員が県境をなるべく越えないようにする方針から、まだ数回しか会つてない人がいる。その人はは、まだ業務連絡くらいしかできていない。気がついたら夏も終わり、日々が過ぎ去つていくことを意識すると寂しさがある。

先日、日曜礼拝で真宗大谷館におもむいたら、何人かの人が参詣されていた。ぎこちなくも2、3会話するだけでホツとする。こういう人と人が交流できるような時に出会ふと、そこに至る検討や葛藤された方の苦労を感じる。気兼ねなく話せる場が待ち遠しい。

(東京5組 報土寺 朝倉俊隆)